

地域学部



多文化共生社会の批判的想像力
 - 社会的分断の論理と構造を知り、他者との共生の条件を探る -

地域学部

教育



【活動概要】

「多文化共生社会論」は地域学部地域学科の選択科目であり、人文・社会科学の専門知と市民社会の実践知から、現代社会における他者との共生の条件を探ることを目的としています。近年は「多元主義の時代の差別的な日常-「社会的分断」のつくられ方を問いなおす」をメインテーマとして、多様性が称賛されながらも、なおも根絶されない差別・排除が私たちの日常に満ちているという、パラドキシカルな時代状況に着目した講義を展開しています。講義では、被差別部落/ホームレス/障がい/ジェンダー/セクシュアリティ/移民・難民/原発避難等に関わる当事者のリアリティに学びながら、「私たち」と「彼ら・彼女たち」のあいだに社会的分断が生み出される際の論理と構造を捉えていきます。専門知のみならず、ゲストによる講義を設けることで、社会的分断を生きる当事者や支援者による実践知にも学びながら、オルタナティブな(もうひとつの)社会の在り方を構想するための批判的想像力を鍛えています。

私たちが日々生きているローカルな地域を、社会的分断の生じる現場としてのみならず、多様な背景を有する他者たちとの「つながり」の下にある現場としても再発見することで、受講生一人一人にとっての他者との共生に向けて、等身大のヒントをつかめるようになることが、この講義の目指すところです。



画像：塩原良和・稲津秀樹編、2017『社会的分断を越境する—他者と出合いなおす想像力』青弓社。

【担当】代表者：稲津秀樹（地域学部地域学科地域創造コース）

関金町における買い物の場の存続×多世代交流プロジェクト
 ~関金地区振興協議会との連携による「ふれあい市場」の開催~

地域学部

教育、社会貢献



【活動概要】

昨今の鳥取県では、JA（農業協同組合）系のスーパーであるAコープやポプラの閉店・撤退によって、中山間地域における買い物困難者の問題が焦点化されつつある。2023年度鳥取大学の必修授業「地域調査プロジェクト」を受講したFグループの学生12名と教員（竹川・菰田）は、倉吉市関金地区における買い物弱者支援問題に取り組んだ。机上学習を経て、倉吉市企画課・関金コミュニティセンター・関金地区振興協議会・倉吉市社会福祉協議会等と連携、進行中の買い物弱者支援政策（買い物代行・買い物ツアー等）に関する学習・地域住民へのインタビューを含めた定期的なフィールドワークを重ね、学生を主体にした買い物代行チケットの原案作成・利用PR動画の作成（写真1）、住民の多世代交流&啓発イベント（写真2・3）を実現してきた。その中でも来場者数174名を数えた2023年11月19日開催の地域イベントは読売新聞で取り上げられたばかりでなく、参加者アンケート（80名）からこのイベントを次年度以降も継続する要望と共に高い評価を得た。その後、関金庁舎内に「新鮮市場 せきがねストア」が2024年3月31日に開店、引き続き関係学生と共に協力支援活動を継続中である。

写真1：地域活動への支援



写真2：多世代交流のためのイベント実施



写真3：地域住民への啓発とメディア掲載



【担当】代表者：竹川俊夫・菰田レエ也
 （地域学部地域学科地域創造コース）

教育



【活動概要】

地域学部地域学科地域創造コースの専門科目である「社会福祉」「福祉行財政」「地域福祉」「地域包括ケア論」について、1年次必修科目である「社会福祉」では、少子高齢化や世帯構造、就業構造、地域構造等の社会変化をふまえながら、貧困をはじめとする様々な生活リスクに対応する社会保障・社会福祉の制度概要や基本理念、発展の歴史、行財政の仕組み等について基礎的な学びを提供します。

2年次選択科目である「福祉行財政」では、自治体が主体とする社会福祉の制度政策やサービスの側面を中心に講義を行い、前半の総論では社会福祉の行財政のあり方や政策理論について理解を深めるとともに、後半の各論では、生活保護や生活困窮者自立支援制度を中心に社会的排除の現状と克服に向けた対策や、介護保険制度を中心とする高齢者保健福祉サービスを通じた高齢者の生活支援の現状と課題等について学びます。

2年次選択科目である「地域福祉」では、地域住民やボランティアが主体となって地域を基盤に自主的に取り組まれる福祉活動にスポットを当て、ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョンの理念をふまえながら、住民が福祉活動に主体的に参加する意義や参加促進に向けた各地の取り組みを学びます。さらに、住民参加を支援する専門機関としての社会福祉協議会の役割について学びながら、持続可能な福祉のまちづくりの現状と課題について理解を深めます。

3年次選択科目である「地域包括ケア論」では、これまでの学びを発展させて、福祉・医療専門職による在宅ケアの現状や、専門職間の連携体制づくりや専門職によるフォーマルケアと地域住民によるインフォーマルサポートとの連携による包括的支援体制づくりについて理解を深めるとともに、「地域共生社会」の実現に向けた地域包括ケアシステムづくりの課題と展望について学びます。

【担当】代表者：竹川俊夫（地域学部地域学科地域創造コース）

鳥取県八頭町との連携による
地域共生社会の実現に向けた地域を基盤とする住民主体の福祉活動推進
基礎組織づくりや福祉の学び場づくりに関する研究

研究



【活動概要】

鳥取県八頭町では、2012年に策定された第1次「八頭町地域福祉計画」によって、住民が地区を単位に自主的に福祉活動や防災・まちづくりに取り組む「まちづくり委員会」の設立が提起され、2019年10月現在、14地区中10地区まで組織化が進むとともに、高齢者の介護予防活動（100歳体操）や地域交流活動（まちづくりカフェ）を中心に様々な福祉活動が実施されています。

現在八頭町は2018年6月に策定された第2次計画（八頭町社協との協働による「八頭町地域福祉推進計画」）に基づき、まちづくり委員会の機能強化を通じて地域包括ケアシステムづくりや地域共生社会の実現に取り組んでいます。そのためにはより多くの住民の参加と協力が必要です。本研究は、そうした課題に応えるべく、住民が「我が事」としてまちづくり委員会の活動に参加し、地域の様々な団体と福祉専門機関が「丸ごと」つながるための学びの場づくりと、それを通じたまちづくり委員会のさらなる発展や八頭町全体での包括的支援体制の構築に向けた方策を実践・研究するものです。



廃止された保育園を活用した八頭町の「まちづくり委員会」の活動拠点（下私都地区）



活動拠点で取り組まれている住民主体の福祉活動（写真は「いきいき100歳体操」の様子。カフェや見守り支援活動等、地域の実情や課題に応じて多様な活動が実施されています。

【担当】代表者：竹川俊夫（地域学部地域学科地域創造コース）

自然の「過少利用問題」解決を目指す 地域共創実学教育

地域学部

教育



【活動概要】

鳥取県東部を舞台として、地域で活躍する農家・林家・漁家と鳥取大生の協働によって、アンダーユースとなった海・山・野の再資源化を目指す地域共創実学教育です。

具体的には、鳥取県東部の「耕作放棄地」「間伐遅れの山」「放棄漁場」を再び糧とする営みに、地域学部地域創造コースの学生らが身体を伴って参画します。そして、現場が直面する具体的な課題を身体で体感したうえで、学生らが現場と共に悩んで問題解決の道を模索するためのワークショップを実施しています。

本授業の特徴は、第一産業（農業・林業・水産業のすべて）を通じて、自然と共にあるとするとする人々との協働するなかで、「人と自然の関係」を学ぶ授業形態にあります。アンダーユースという現代的な地域課題の最前線で模索する人々との身体ベースの協働から、「持続性」の理念を再考する「学びの場」を創出しています。



日本3大林業地(智頭林業)の歴史を体感する学生ら

近年になり、鳥取の沿岸漁業振興として導入された定置網漁



ブランド米の確立に向けた自然乾燥のためのはせがけ作業

【担当】 代表者：村田周祐（地域学部地域学科地域創造コース）

都市再生論

持続可能で住みよい都市の在り方に関する国際比較研究

地域学部

教育、研究



【活動概要】

地球温暖化への対応から低炭素社会への転換が求められ、コンパクトシティなど脱クルマ依存型の都市形態がよく知られるようになりました。他方で多くの都市がモータリゼーションに対応した都市構造となっている地方圏の現状では、それだけでは住みよい都市にはなり得ません。リバブルシティは、欧米ではポピュラーな望ましい都市の概念で、インフラ整備による生活利便性のほか、経済基盤や治安、教育など多様な評価観点をもつ点に特徴があります。本研究では生活利便性に優れた大都市型の都市タイプだけでなく、それとは異なる住民の生活満足度の高い多様な都市の在り方などを、国内外の事例を比較検討することを目的としています。

他方で21世紀は、途上国の人口増加にともないこれまで人間活動が低調であった地域でも都市開発が活発化し、砂漠など乾燥地での開発が進んでいます。こうしたサブ・アネクメーネでの開発は環境負荷が大きく、持続可能性が低いなど多くの課題があります。かかる地域での都市開発の動向や課題についても視野を広げ、研究に取り組み教育に還元しています。



フランス・グルノーブル。公共交通の再生で環境問題と生活利便性の改善に取り組む。



モンゴルの首都ウランバートル。急速な人口集中のため生活環境の整備は後手に。

【担当】 代表者：山下博樹（地域学部地域学科地域創造コース）

地域の伝統文化を受け継ぐ人材の育成
—地域と連携した山陰の「一式飾り」の継承の取り組み—

地域学部

教育



【活動概要】

山陰では、「一式飾り」と呼ばれるユニークな民俗行事が、江戸時代後期より受け継がれています。これは地域の祭りにおいて、住民が町内ごとに、陶器一式など同種の生活道具のみを用いて、話題の人物や干支の動物などに見立てて飾り、作品の腕を競い合うもので、暮らしを彩る創作活動として、地域で長年続けられてきました。ところが近年の急速な人口減少に伴い、「一式飾り」の担い手が減り続け、伝統文化の継承が大きな課題になっています。

こうした状況に対し、研究室では2011年より毎年地域と連携してフィールドワークを実施し、また地域の方から伝統の技を学ぶなど、「一式飾り」の価値を探求する研究に取り組み、その研究成果をもとに、2014年から「一式飾り」が伝わる鳥取県南部町の小学校において、これからの地域を担う子どもたちに向け、「一式飾り」の価値を伝える学習を開発して毎年実践し、地域の伝統文化を受け継ぐ人材の育成に取り組んでいます。



地域の方から指導を受けて制作・展示した山陰の「一式飾り」。写真は陶器一式による作品。



地域と連携して2014年から毎年小学校で実践している「一式飾り」の授業風景。

【担当】 代表者：高橋健司（地域学部地域学科人間形成コース）

地域調査プロジェクト(人間形成コース2年次演習・実習系科目)

地域学部

教育



2024年度のプロジェクトテーマ

【地域と教育】

- ・夜間中学とは？
- ・外国人にとっての地域/地域にとっての外国人
- ・地域に根差した教材づくり
- ・ボランティアで知る子どもとの関係性

【発達福祉】

- ・発達・教育・心理・福祉・障害者問題に関する研究提案
- ・特別支援教育・障害者福祉の問題に関する調査研究
- ・社会的養護で暮らす子どもと大学生との関わり
- ・赤ちゃん学のすゝめ

【学習デザイン】

- ・英語学習の動機を高めるビデオ作り
- ・新しい学習指導案の開発
- ・理科授業の課題とその改善
- ・「子どもの音楽イベント」の企画と実践
- ・地域と美術

【概要】人間の形成作用（産・育・訓・教）及び生涯にわたる人間形成を見通す、地域教育をとらえる上で共通に持つべき基礎的方法を学ぶとともに、具体的な地域の教育にふれることで、地域教育を学ぶ意欲を培う2年次開講科目である。教員が、それぞれの研究分野の特色を生かして立ち上げたプロジェクトに分かれて学習活動が展開する。地域における諸活動を教育という視点から捉える能力を身につけること、疑問を持ち、科学的な手法を用いて検証する能力及び、仮説設定から先行研究の検討、調査・分析、発表にかかわる技能と態度を身につけることを目標とする。

学年	必修科目	演習・実習系	選択科目
1年次	地域学入門 地域教育入門 学習社会学 教育の課程と方法	大学入門ゼミ 地域フィールド演習	心理学系科目 保育・幼児教育学系科目 特別支援教育学系科目 教育心理学系科目 教科教育学系科目
2年次	生涯発達論	地域調査プロジェクト 教育実習 海外フィールド演習	
3年次	地域学総説A 家族支援論 障害児教育学総論	教育実習(基礎) 教育実習指導 インターンシップ 専門ゼミ	発達福祉プログラム 地域と教育プログラム 学習デザインプログラム
4年次	卒業研究	教育実習(応用) 保育・教職実践演習(幼・小) 教職実践演習(中・高) 人間形成ゼミ	



地域の学校や児童クラブ、こども食堂など、人間形成に関わる様々な場所が調査対象となる。



フィールドワークや教育実践、実験的研究など、多様な調査方法を用いながら活動を展開する。

【担当】 鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース・教員養成センター

📖 教育、研究、社会貢献、課外活動



見る場所を見る

アーティストによる鳥取の映画文化リサーチプロジェクト

【活動概要】

「見る場所を見る」は、新聞記事・記録写真などのノンフィルム資料や当時を知る人への聞き取り調査などをもとにして、鳥取県内にかつてあった映画館およびレンタルビデオ店を調査し、鳥取を拠点に活動するイラストレーター Clara によるイラスト作品を通じた記憶の復元を試みるプロジェクトです。

2023年8月には、米子市立図書館との共催事業として巡回展「見る場所を見る2+——イラストで見る米子の映画館と鉄道の歴史」、12月には倉吉市と郡部を調査対象とした成果報告展を開催を Gallery そらで開催しました。また2024年1月26日には「全国映画資料アーカイブサミット2024」に招かれ、本プロジェクトの取り組みを紹介しました。

資料とイラスト作品の展示を通じて鑑賞者の記憶を引き出し、さらなる情報提供や資料提供から、次の調査・研究につなげていくサイクルを形成することができています。



Clara《日本館》2023年



成果報告展・会場風景



巡回展チラシ

【担当】 鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース
佐々木研究室（佐々木友輔、杵島和泉）

東アジアプロジェクト

（東アジアの現場・現地感覚を持つ人材育成プロジェクト）

📖 教育



【活動概要】

鳥取大学地域学部では「東アジアプロジェクト」を進めています。海外で言葉や文化・生活習慣を高い壁と感ぜないで一步を踏み出せる人、必要な知識と言語、現場・現地感覚を備えた人を育成するためです。

中国（廈門大学）・台湾（高雄師範大学）・韓国（慶熙大学校）の学生を鳥取大学に迎える東アジアプログラムと3つの海外プログラム（中国、韓国、台湾）があります。海外プログラムでは事前学習、現地調査、事後発表を行います。また、留学生との勉強会を通して中国語・韓国語の上達を目指します。

これらの活動によって「韓国・中国・台湾」といった枠組みではなく、仲間の顔が見える、生きた場としての「東アジア」という新たな世界を発見します。

慶熙大学
鳥取大学
廈門大学
高雄師範大学

文献での学び
現場・現地での学び

語学力
中国語、韓国語

中国プログラム
台湾プログラム
韓国プログラム

【担当】 鳥取大学地域学部国際地域文化コース
柳静我教授、岸本覚教授、李素妍准教授